

自由民主党 信頼の小金井

SHINRAI NO KOGANEI

発行：小金井市議会 自由民主党・信頼の小金井
小金井市本町6-6-3

・遠藤ゆりこ ・河野麻美
・五十嵐京子 ・吹春やすたか

会派ニュース
No.29
令和6年7月発行



災害に強いまちづくりを!

備えを充実!

近年、地震や豪雨災害など大規模災害が数多く発生し「防災対策」は言うまでもなく急務です。災害に強い小金井をつくるため、様々要望しました!



市の防災計画で想定している「多摩東部直下地震」の被害状況は…

| | |
|----------------|-------------|
| 震度別面積率(6強) | 74.6% |
| 建物全壊/半壊棟数 | 445棟/1,567棟 |
| 出火件数 | 7件 |
| 死者数 | 49人 |
| 負傷者数 | 662人 |
| 避難者(発生4日~1週間後) | 21,091人 |

市内に28台のみ 段ボールベッドの備蓄増を

土足で利用することの多い避難所は床に落ちた粉塵を吸い肺炎になる傾向があり、物理的に床と距離をとることが重要。段ボールベッドの備蓄増及び災害時の供給について事業者との協定締結を求める。

自主防災会と協力し 毛布の備蓄増を

毛布などの備蓄数が少ないものは地域防災会との連携し、市全体で量を増やす検討を。



備蓄品

トイレ整備の充実を図ろう

避難所となる市立小中学校にはマンホールトイレの設置が完了しつつあるが、更なる増設も検討すべき。災害時にトイレを我慢し、感染症などを発症する恐れもあり「トイレトレーラー」の導入についても前向きに検討するべき。

スタンドパイプの周知徹底を

消火栓とつなげることで毎分100ℓ以上の放水が可能なスタンドパイプ。消防署と連携し更なる周知を。

液体ミルクの備蓄増を



訓練



▶災害支援ボランティアとの共同訓練実施を

市内に54人いる災害支援ボランティアと発災時に対応できるように消防団・消防署と共同訓練の実施を。

▶中学生も参加の訓練を

災害現場で大人同様の活動が可能な中学生による参加型防災訓練の実施を。

▶スタンドパイプを使用できるように訓練しよう

▶緊急情報を迅速に市民に伝えることができる防災無線アプリの導入を!

避難所

在宅避難・車中避難の研究

避難場所の指定拡大だけでなく、自宅避難する場合のサポート方法の研究、車中避難を是とする場合の条件整備の研究も進めてほしい。

避難所運営に女性目線を

平時より女性の視点を取り入れて、男女が共同して行う避難所の開設や運営のあり方を検討すべき。災害時は女性や子どもが巻き込まれた性犯罪が増加するため女性に配慮した防犯対策も重要である。

保健師や看護師資格保有者との連携

市内には15人の保健師がいるが自身も被災している可能性もあり、全員が災害時の役割を担うことは難しい。市内の保健師や看護師資格を有している方に災害時にはご本人のできる範囲で応援を依頼する仕組み・体制づくりを要望する。



支援を受けやすくする体制整備

緊急車両の通行や支援物資運搬ルートを整備を



市内は狭い道路が多く、緊急車両の通行が出来ない箇所が多い。支援物資の運搬ルートにもなり、災害時に沿道の建物が倒壊しても通行可能な都市計画道路3・4・11号線の整備推進を求める。

更なる災害協定の締結を

集積場所の再検討を

支援物資は小金井公園にある総合体育館地下に集める計画である。しかし運び入れるエレベーターは1基(人用)のみで階段を使い人力での対応になる。届いた物資を迅速に受取、市内各避難所への効率よく分配出来るのか疑問であり、再構築すべき。

自助が大事!

3日間の水と食料を確保しよう!

自主防災会に入ろう!

一人で大きな災害に立ち向うことは非常に困難。日頃から地域住民が互いに協力し合いながら防災活動に組織的に取り組むことが必要である。

「減災」にも努めよう!

家具転倒防止器具の設置など、自ら積極的に防災対策を。



防災植物の周知徹底を

被災時は食料不足や栄養の偏りが生じやすい。身近な食べられる野草について知ろう。



学童保育所の環境改善を急ぐことを求める決議

小金井市の学童保育所は以前から定員制ではなく全入制を採っています。

西岡市政において認可保育園は18園から44園に増設したが、学童保育所については抜本的な対策を採らず、学校教室の活用などで対応、そこに35人学級の開始、**保育園が増えた事による学童保育所への申込増と続いたため、対策が間に合わず、9つある学童保育所はどれも手狭になっています。**

民間学童保育クラブが一つ増えましたが、焼け石に水の状態、各学童保育所は手狭だけでなく、修繕などの遅れもあり、多くの問題をかかえています。

6月議会最終日、議会から市長に向けて決議を提出し、次の3点を要請しました。

- 01 早急に施設整備の中長期方針を明らかにすること。
- 02 緊急対策として、各学童保育所の状況に合わせ、公共施設、放課後子ども教室や民間学童保育クラブなどの活用を検討し、必要な対策を講じること。
- 03 学童保育所の設備や備品などの整備修繕を進めること

小金井の歴史を知ろう

市議会議員
五十嵐 京子
Kyoko Igarashi



今年**は名勝小金井桜指定100年**の年です。1737年に、新田開発をした川崎平右衛門により玉川上水に植樹された桜が、多くの人々を小金井の地に呼び込み、この桜が武蔵小金井駅誕生のきっかけになり、小金井市発展に大きく寄与しました。川崎平右衛門が作った貧しい農民の生活を支える制度が、明治になり廃止されたことをきっかけに起きた悲惨な事件である「御門訴事件」。さらに昭和には、現在の文化財センターの前身となる**青年団研修所**では、全国から集まった青年に、自らの力で考え行動する教育を実践していたという誇るべき歴史があります。昔の人々の息づかいを感じることができます。



行政のデジタル化！ 勤怠システム導入を

市議会議員
河野 麻美
Asami Kawano



人口減少とともに働き手不足が問題となっている昨今、**行政の業務効率化**は取組むべき課題の1つです。本市では、タイムカードを用いて職員の勤怠を管理し、各種申請も書面で行っています。タイムカードは複雑な操作や設定は不要ですが、給与計算するにあたり手作業での集計が必要だけでなく、従業員退職後5年のカード保管が義務付けられ、1000人以上職員がいる本市では保管場所とコストもかかります。**他市では既に勤怠管理システムを導入し事務効率化を図っており、新庁舎移転も見据え、必要最低限のシステム導入はお願いしたいと要望しました。**



市議会議員
遠藤 ゆりこ
Yuriko Endo

日本の**和食が世界遺産に登録**され、世界的にも和食が見直されています。かつて炊飯釜を整備する公立学校は2校のみ。まずは、全14校に炊飯釜を整備する所から始まった**米飯給食**。14校の平均実施回数は週3.75回、1ヶ月で見ると、75%になります。平成24年当時は、週2.8回、56%であったから、この間19%、約2割も増えた事になります。気概をもって、まずは週4日の**米飯給食の実現**に向かっていくことを求めました。



米飯給食の回数を更に ふやさないか



市議会議員
吹春 やすたか
Yasutaka Fukiharu

私は熊本地震、九州北部豪雨、糸魚川大火災など個人視察して来ました。**災害現場をこの目で見る事、自分の足で歩く事、現地の人を直接聞く事こそ大切**であり、そこから得たものを市政に反映すべく行動して来ました。今回、能登半島地震の被災地に伺いました。発災後半年が経過していますが、現地ではまだ災害の傷跡を多く確認できました。聞けば**「重機が入って来れず作業が進まない」**事も原因の一つであるそうです。予測不可能な自然大災害に対し「自助・共助・公助」それぞれの課題を解消し「備え」を十分に整え、災害に強いまちを作る事の大切さを改めて実感しました。

能登半島地震現場を 視察して

